

向学館通信

2005・09・28

文化祭・体育祭など行事の多い時期です。さまざまな方面に、力いっぱい自分をためてください。

10月1日は調整休講日で、お休みにさせていただきます。

私立中学・高校の説明会に参加して

この時期、私立校が塾を対象とした説明会を行っています。今年も、すでに十数校の説明会に参加しました。少子化のため、定員より入学者数が下回っている学校もでています。こうしたところでは、教員の再教育をしたり、教育システムを改善したり、さまざまな努力がなされています。また、入学者数が低下していない学校でも、手を抜くと受験者が減るかも分からないという厳しい状況を意識して、どこも教育内容の改善を積み重ねています。

私学は、生き残りをかけた熾烈な競争にさらされているため、「評判をあげたい」「低い成績で受け入れた生徒でも、高い所へ入学させたい」「勉強時間を増やし、実力を向上させたい」といった気持ちがきわめて旺盛です。

英数国の授業時間は公立の1.5~2倍というところもめずらしくありません。また土曜日は休まない、夏休みを少なくして授業を確保するという学校もかなりあります。

英語なども海外留学を長期に行って「生きた英語」を学ばせる学校が増えています。こうした懸命な努力の結果、いまでは、十年前とまったく「違う学校」になっているといってもいいでしょう。親御さんたちはまだ、各校の「昔の評判」を気にしている方がおられるようですが、いまではどこも内容が一新しています。

また、各校が「**指定校推薦枠**」を拡大していることも注目に値します。これは、大学が、その高校の生徒を何人まで受け入れるという、高校と交わした約束ですから、生徒は基準をクリアすれば大学に入れます。一方で、私学は「特進」のようなコースを設けて国公立大学の受験者をいたれりつくせりで支援しながら、「普通コース」の人には学校で真面目にやっていたら「推薦枠」で大学へ行ける道を太くしているわけです。

また、大学受験という狭い視野ではなく、将来をどう生きるかという職業選択をも含めた「**進路指導**」「**進路学習**」に時間をさいしているところもあります。「進路」という科目を週1回設けているところもあります。これも、高校三年になっても自分の進む方向が分からないといった人をなくし、積極的に前向きに生きるための必要な勉強だと思えます。

一言でいって、私学は大きく変わりつつある、ということです。それに比べて、公立は生徒の意欲が低ければ低いままに放置されているように思います。生徒の学習意欲も概して高くありません。困ったことです。公立高校では、進路指導に当たって、とても国公立大学など受かるはずがないような生徒にまで国公立受験を勧めるといった、無責任ともいえるような「指導」をするところまであります。

お金の余裕がないために公立へ進む人が、大学進学で不利にされないようにしてほしいと思います。

他の府県では、公立高校はその県のトップレベルの学校からレベルの低い学校まで数ランクにわたって存在します。ところが、京都では、一流大学へ行くにはどうしても私学を選ばなければならないというのが「当たり前」になっています。最近、洛北高校など中・高一貫校が出来たり、堀川高校など難関大学受験にも強い公立高校が出てきたことは、すばらしいことです。公立中学の方も、私学との格差を何とかしてほしいと思います。

私立中学校は、しつけや学習面で、公立とは大きな差がついていくように思います。

少子化のために私学の経営が苦しくなり、生き延びるために懸命の努力をしてきました。そのことが京都の教育界全体にさまざまな波紋を広げていることは確かです。

国語教育に定評ある「論理エンジン」を採用します

国語の受験用教材などの出版や予備校のカリスマ講師として有名な出口汪（でぐち・ひろし）先生の「論理エンジン」をテキストとして採用し、本格的に国語力向上に対処することにしました。これまでも、国語力・論理力をつける手段として「作文・論文コース」を設けて、この分野の指導をしてきましたが、国語力の全般的な強化を希望される親御さんが多く、新たなコースを設けることにしました。

「論理エンジン」というテキストは、「言語能力を鍛え、論理的思考力を養成する画期的なトレーニング」として定評を得ています。このトレーニングは、学年とは関係なく自分のレベルにあったところから学習でき、わからなかったら後戻りしてもかまいません。また、分かる人はどんどん先へ進むこともできます。システム自体はこのように柔軟ですが、高いレベルの理解力・思考力へと到達させる内容になっています。下は、ごく基礎的な読解レベルから、上は、大学受験、国家試験受験レベルまで対応しており、国語力の弱い人への対策はもちろん、国語に強い人もさらに論理力、表現力を上げるのに最適な教材だと考えます。

これまでの国語教育の教材としては、教科書準拠のものもそうでないものも、学校の教科書自体が以前と比べてレベルが低くなっていますので、それに合わせてレベルが低くなってきていました。また、「問題集」のような教材も論理的思考を育てるのには不十分です。それに、学校での国語の授業時間が減少し、国語教育はほとんど「お寒いかぎり」になっています。

とくに、高校生になると、学力は、小・中よりもっと明確に、国語力の弱さが他の学科の足を引っ張る原因になってきます。小・中レベルでは、まだ数学（算数）や理科・社会も暗記でかなりカバーできることがあります。しかし、高校レベルでは、論理的な理解力や推理する力がないとわからないし、また、わからなければ暗記することさえできません。

英語も、国語（母語）力をこえることが出来ません。 高校生の英語教科書をこちらで翻訳して訳文を渡すケースがありますが、その訳文（日本語）の意味が読み取れない生徒さえいます。

国語が弱いと全てが伸びない！ こうした危機感から「論理エンジン」を採用することにしました。すでに、塾だけではなく、私学などでも全生徒にこの教材を使って論理的な力を高めようとしている学校が出てきています。

実施に当たっては、改めてご案内をお送りします。ぜひご検討ください。また、ご案内をお送りする前でも、疑問点などがありましたら、お問い合わせください。